

佳作

「みんなと違う」私

べっぴんさん べっぴんさん べっぴんさん べっぴんさん
別府市立別府西中学校一年 吉田 かりん結愛

私は、外出する時、毎日必ずマスクをしている。体育の授業の時も、運動会でも、夏でも、マスクを自分から外すことはない。癖の強いカールがかかった髪は、なるべく目立たないように、髪ゴムで小さくまとめている。最近目が悪くなってかけ始めたメガネも、人の目を避けるには、都合が良い。私の瞳の色は、肌の色は、顔立ちは、みんなと違う。私の髪も、みんなと全然違う。人に見られると、また「みんなと違う」と言われるのではないかと、身構えてしまう。みんなと同じになりたい。いつからだろう、そう思うようになってしまったのは。

私は、六歳までオーストラリアで生まれ育った。オーストラリアの幼稚園や学校のクラスには、西洋人や、アジア人、私のような混血の生徒が入り混じっていた。瞳も髪も肌の色もそれぞれ違う人種の中で、私も「みんなと違う」ということが当たり前だった。だから、私は自分の外見について考えられることもなく、堂々と生きていた。

小学一年生の二学期、日本の学校に転校することになった。転入したその日、学校の教室に入り、みんなの顔を見て私は驚いた。クラス全員が綺麗で真っ直ぐな黒髪と真っ黒な瞳をしていたからだ。私の父親譲りの強い癖毛が、なんだかとても目立って見えた。みんなも私を見て少し驚いていたようだった。「なんだあれ、すごい髪の毛だな。」一人の男の子が言うと、みんなもそれにつられて笑った。私は、クラス全員に、好奇の目にさらされているような気がした。何も言えず、席に着くと、隣に座っていた女の子が私に向かって言った。「髪の毛クルクルしててかわいいね！」ニコニコ笑いながら、私の髪を撫でてくれた。私は、本当に嬉しかった。それがきっかけで、私はみんなと友達になれた。

転入して二週間がたった頃、嫌なことがあった。私が友達と砂場で遊んでいた時、隣のクラスの女の子から、突然石を投げつけられたのだ。痛かった。親指からは、血が流れ出た。保健室で怪我の手当てをしてもらっていると、先生に連れられて、その子が謝りにきた。「どうして石をぶつけたの?」私が聞くと、こう言った。「外人が石をぶつけられたら、どんな反応するか見たかった。」平然と答え、たその子を前に、自分が人間として見られていないような気さえした。その時私は初めて、周囲とは

つきり区別され、自分という存在を否定されたような気分になった。単なる好奇心でやった悪戯だったかもしれない。でも、まだ私には、その傷の跡が残っている。手にも、心にも。それからというもの、友達もたくさんできたが、いつも私は不安だった。

そんな気持ちでいる私にとって、家族という時間は最高だ。私たちは、四人とも、瞳の色も、肌の色も、顔立ちも、髪も、性格も、全く違う。そんな全く違う私たちだからこそ互いにわかり合い、支え合っている。だからこそ、私にとって居心地が良い。父と母は、私や姉のことを、性格も、行動も、外見も、どんな小さなことでも、いつもいつも褒めてくれる。私は家族といると、私らしく自信を持っていられる。でも、何故か外に出ると、自信をなくしてしまう。そんな私と対照的なのは、私の姉だ。姉は、いつも、前向きで、自信に満ち溢れている。姉も、周りから「みんなと違う。」変わっていると言われるそうだが、私とは違って、逆にそれを喜んでいいる。人と同じなのが嫌いだという。

姉は、自分が特別な存在だと知っている。
今年の四月、中学に入学する前、私は不安でいっぱいだった。「誰かにまた「みんなと違う」と言われたらどうしよう」と心配だった私は、姉に聞いてみた。すると、あっけない答えが返ってきた。

「違うって言われるに決まっているじゃない、同じ人間なんていないんだから。みんなと違うのは当たり前、だからこそいいんだよ！私ばかりのこと大好きだよ。だってみんなと全然違うから。」そう言っつて、明るく笑った。今まで私は、他人からのうわべだけの評価を気にしすぎて、自分で自分を差別して、苦しんでいたのかもしれない。そう気付いたら、嘘みたいに私の心は軽くなった。

そして、私は前より少し自信を持てるようになった。新しい中学で友達もたくさんできた。それでも、まだ私の外見は「みんなと違う」ままだ。「あの子って髪の毛からして違うじゃん。」そう言われてしまう事もある。でも、私は心の中でこう唱える。「みんなと違うのは当たり前。違うことは良いことなんだ。」そうして私は少しだけ強くなれる。

自分だけがみんなと違う気がして疎外感を感じている人は、きっと私の他にもいると思う。そんな人が身近にいることに気付いたら、その人のことを理解し、寄り添ってあげられる人に、私はなりたいたい。そして自信をもって伝えたい。「みんなと違うことは良いことなんだよ。あなたは特別な存在なんだよ。」と。